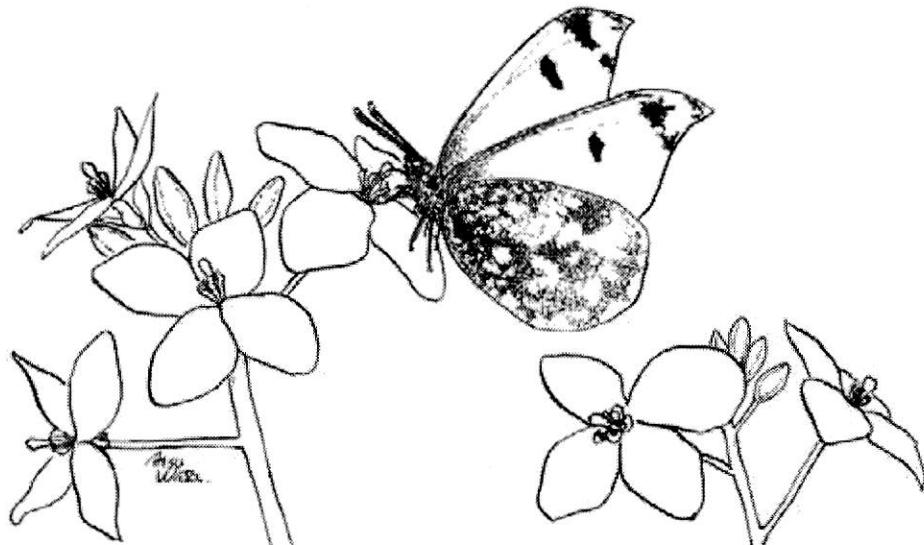


協議会ニュース 111号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2007.3



ツマキチョウ

前翅先端の黄色いワンポイントが可愛らしい春の妖精。

イラスト・文…名古屋支部 渡辺 敦

・支部だより(尾張・奥三河・名古屋)	P2
・研修レポート 外来生物法-概要と施行状況 吉川洋行	P4
・会員のページ		
お薦めの1冊	小嶋 譲P5
あいち環境学習プラザ オープン	石田晴子P6
・自然セレクション 100 岩屋堂	山本征弘P7
・観察会あれこれ 自然のしくみ・その2	奥居達朗P8
・理事会だより	P9
・事務局だより	P11
・総会案内	P12

支部総会報告

協議会の総会に先立ち、1月から各支部の総会が開かれ事業計画や新たな支部役員が決定しています。本号から2回にわたり各支部の総会報告を掲載します。今回は尾張、奥三河、名古屋の3支部を紹介します。



尾張支部

支部事務局（18年度） 辻 愛子

日時：1月8日（成人の日） 場所：労働会館本館（2階、第4会議室）
参加人数：23名（懇親会：12名）

「今年は大谷さんらを中心とし尾張支部の活動としてハンドブックの作成出版ができたこと、小牧市委託観察会が復活したこと等、新たな功績があった。しかし、残念だったのは新人を役員に選出した後、皆で育てる気持ちで運営しなければならないのにそれができていないと感じる1年であった。自分が新人で支部長をやった時代は、事細かにフォローして頂いた事を思い出す。皆で支える会の運営をしていきたい。」このようなH18年度支部長山田さんのこのような挨拶で気持ちの引き締まるスタートとなりました。冒頭のお言葉のお陰により、新役員を選出する際も助け合いの気持ちがおこり、会を運営するにあたってはいろんな人の力でなりたっていることをしみじみと感じました。改めて今年度役を引き受けくださった方々に感謝の思いが湧きました。選出された19年度の役員は次の方々です。

支部長：樋口祐子 副支部長：大谷敏和 事務局：内海勇夫・吉田雅紀

会計：齋竹善行 監事：加藤正行

そして、全体を通して、参加した皆で協力し合い作り上げていくという雰囲気の中行われた、とてもいい総会であったように思います。昨年事務局を引受ける前までは、ただ観察会に参加して教えてもらうことのみで、あたりまえのように参加していましたが、ここに来て参加できるのもいろんな人のお陰あってこそだと気づきました。今年事務局を降りますが、それぞれ相互に役に立ってなりたっている自然に教えられるように、会に参加する以上会の役に立つ人でありたいと感じた意味深い総会でした。

奥三河支部

支部長 小山 瞬二

19年度の奥三河支部総会は1月21日(日)、新城観光ホテルで行われました。

支部長挨拶後協議事項に入り、18年度事業報告は、昨年実施した①ふるさと親子観察会(鳳来寺山自然科学博物館ガイドツア)、②支部観察会(船上からみる蜂の巣岩と河畔林・きのこ観察会)、③支部研修会(兵越峠~青崩峠における研修)、その他として名古屋市立津賀田中学校の面の木園地野外観察会の指導、県立岡崎盲学校の県民の森観察会指導などの報告がありました。特に、盲学校における観察会指導は感動を得た1日であったと報告されました。次に会計報告がされ、2議案とも承認されました。

19年度事業計画では例年同様、実施されていない候補地を全員で協議した結果、①ふるさと親子観察会(面の木園地の植生)、②支部観察会(大島ダム(朝霧湖)・百間滝)、③支部研修会(天竜下りによる研修)に決まりました。

支部役員(19、20年度)は、支部長 小山舜二 副支部長 村上和彦 書記会計 山田由乃に決まりました。

懇親会は村上さんの「月の輪熊出没」の話いや、例年お世話になっている会員の佐藤さん(新城観光ホテル)の「桜淵の野鳥」について等々、佐藤さんのご厚意で提供されたエゾシカを頬張りながら楽しい語り合いができました。

名古屋支部

支部長 滝田 久憲

平成19年度の名古屋支部総会が1月28日(日)午後2時から名古屋市教育館2階の第8研修室において、会員21名の参加で開催されました。堀田さんの司会の下、萩原さんを議長に選び、平成18年度の事業と会計の収支報告がなされ、承認されました。平成18年度に取り組んだ新たな事業としては全市的なカシノナガキクイムシの被害調査があります。この成果を9月の“環境デーなごや”で報告し、朝日新聞にも取り上げられました。次に平成19年度の新役員が提案され、承認されました。規約により2年間はこの体制で会を運営します。続いて、平成19年度の事業計画とその予算が提案され、承認されました。市内11箇所での定例観察会や“なごや自然教室”などの活動、各種調査、さらには“なごや環境大学”での講座の企画などの環境教育に関する事業の充実を図ることが確認されました。最後に、環境学習会で作成した環境紙芝居が長谷川さんより披露されました。平成19年度の役員は次の通りです。

支部長 滝田久憲

副支部長 石原則義 近藤記巳子 滝川正子 布目均 萩原育男

巾賀治 廣岡貴志 堀田守 山田千宏

事務局 佐藤国彦

会計 中西健夫

監査 長谷川紀男

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)一概要と施行状況ー」講師 福永泰生 氏

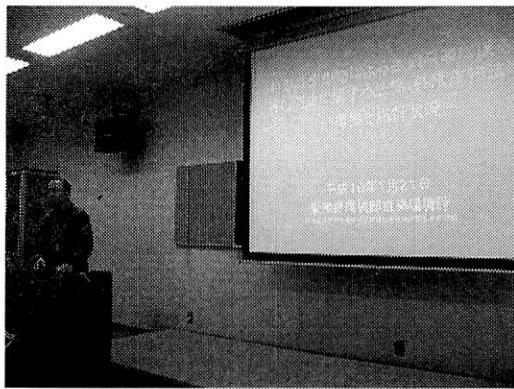
主催/ 愛知県自然観察指導連絡協議会 協力/ 愛知県

場所/ なごやボランティア NPO センター 12 階研修室

日時/1 月 21 日 10~12:00 講演会・フリー・ディスカッション

講師の福永泰生氏は、愛知県環境部自然環境課野生生物グループに属して県内の野生生物に関する行政に取り組んでこられた方です。

今回の講演会は実際に県の行政で野生生物を担当されている福永泰生氏により、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)ー概要と施行状況ー」という演題で、行われました。今日の「外来生物法」の研修会は、総勢 11 名というこぢんまりとした会となりましたが、環境省提供によるパワーポイントのプレゼン資料やその印刷物などを用意され、わかりやすいお話と具体的な質疑応答で、とても役に立つ研修会でした。また、最近のトピックスとして、生物多様性条約締約国会議(COP10)の国内誘致として愛知県に決定したことや、5月に行われる『第 61 回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」in 愛知』の紹介などもされました。



▲講師 福永泰生氏

レポート 知多支部 吉川 洋行

外来種の問題については、まず、外来種の輸入の現状、導入の経過、それらの中で「侵略的とされる外来種の問題点」そして

なぜこの法律が作られ、施行されることになったかの経緯を資料を基に話された後、愛知県内での実態と対策として、アンケート調査の結果をもとに特定外来生物と指定された種の県内での分布状況(これは指導員も協力して作られたもの)やアライグマなどによる被害状況、県内や国内における具体的な事例について紹介されました。そして、「愛知県における今後の自然環境保全施策の基本的な方向について」という県の方針についても説明がありました。

質疑応答の時間には、基本的にその場所の管理者が行うことになるので管理者と協議する必要があること、移動させるような除去計画は県や環境省に申請して手続きする必要があることなどの説明があり、例えば「オオキンケイギク」の駆除などの具体的な話として、土手などでは刈り取って袋に詰めて移動させることは違反になるが、その場で埋めるなど移動を伴わない場合は違反にならないということなど、熱心でわかりやすい説明がありました。

参加者が少なかったことは残念でした。午前、各観察会実施の時間帯に設定してしまったことや、周知方法に問題があったかと思います。会員でもある西野課長補佐様を含めて県環境部、環境省のご協力に感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

残念ながら一般参加者はほとんどありませんでしたが、いくつかのメーリングリストで流したので、各地からご照会いただき、要望のあった方には、資料を送ることができました。

お薦めの1冊

尾張支部 小嶋 護

最近、栄のスカイルにある「あおい書店」でおもしろそうな本を見つけたので、つい3冊も買ってしまった。マークス寿子の「日本はなぜここまで壊れたのか」、ひろさちやの「仏教が教えるこころが穏やかになる話」、そして今回お薦めの1冊、蓮実香佑の「植物という不思議な生き方」である。

新約聖書が語源の「目からウロコ」という諺があるが、この本はまさにその諺にピッタリの本で、面白くてあっという間に読み終えてしまった。動物と対照的な生き物である植物の「生き方」にスポットライトを当て、次々にその不思議な生態が明らかにされていく。

目次の一部を紹介すると、

- ・天然成分でお肌すべすべ 一病原菌とのミクロの戦い一
- ・怪獣出現SOS 一昆虫の食害からの防衛一
- ・アリがいるからアリガタイ 一アリをめぐる植物の暮らし一
- ・走りたいとは思いません 一植物体内に同居する共生菌一

最新の研究を踏まえた難しい内容が、とても分かり易い表現でしかもおもしろく書かれているので、読んでいて飽きることがない。植物の生き方を通して「進化」の意味を考えさせられたり、「生きる」ことの不思議さを考えさせられたりもする。「百聞は一読にしかず」と言うかどうかは知らないが、この本にはたいへん興味深い話が詰まっている。また同時に、植物の世界から発展して、人間界の戦争や環境などのシリアルな問題をさり気なく、それでいて説得力のある口調で読者に語りかけている。そういう意味では、この本は意外に『奥が深い』のだ。

それにしても、植物はいったいどこで「考える」のだろう。分かっているようで実はまだまだ不思議な存在、それが植物なのだ。

ということで、とてもおもしろかったので自分だけではもったいないと思い、貴重な紙面をお借りして紹介させていただいた。



あいち環境学習プラザ オープン

名古屋支部 石田 晴子

あいち環境学習プラザは、平成17年1月に策定した「愛知県環境学習基本方針」に基づき、愛知県における環境学習の拠点施設として、私が勤務する「愛知県環境調査センター」の1階に平成19年2月6日にオープンしました。

○あいち環境学習プラザの概要

所在地	愛知県環境調査センター1階 (名古屋市北区辻町字流7-6)
開館日等	月曜日から金曜日（土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は閉館） 午前9時から午後5時まで
利用方法	誰でも無料で利用できます。 ただし、講座の受講等については、事前申込が必要です。

施設の概要

○交流コーナー (76 m²)

- ・環境情報ライブライ
 - インターネットによる各種環境学習情報を提供
 - ・環境学習に関するポスターの提示やチラシ等を配置
 - ・環境学習に役立つ書籍や県内の環境学習施設のパンフレット等の閲覧
 - ・資材の貸出
双眼鏡、顕微鏡、ルーペ、啓発ビデオ（自然、大気、水、リサイクル等）の貸出
 - ・環境学習に関する相談
- セミナー室 (62 m²)
公募による企画講座や、学校・企業等の要望に対応した環境学習講座を随時開催



▲あいち環境学習プラザ 交流コーナー

○あいち環境学習プラザ開所式

2月6日の開所式では、稻垣副知事（東三河支部所属）のあいさつの後、来賓の青山環境省中部地方環境事務所長、愛西市立草平小学校5年生の生徒さんらによる「あいち環境学習プラザ」看板の除幕式が行われました。

続いて、セミナー室で草平小学校の生徒さん30人を対象に、生活排水について学ぶミニセミナーを開催し、私が講師を務めました。また、来所された方々には、交流コーナーにある環境学習パネルや閲覧図書・資料などを自由にご覧いただきました。

プラザは環境学習のプログラムづくり、人づくり、ネットワークづくりをお手伝いします。いろいろな行事案内や団体PRなどのポスター掲示・チラシの設置もできますので、皆様のご利用をお待ちしています。

ご不明な点などがありましたら、石田までお気軽にお問い合わせ下さい。

○ お問い合わせ先

電話 052-910-5489 (企画情報部)

FAX 052-991-6241

<http://www.aichi-kankyo-gakushu-plaza.unet.ocn.ne.jp>

岩屋堂

尾張支部

山本征弘



名前の由来になった岩屋堂



秋の紅葉

名古屋から車で約1時間、瀬戸の街の東外れにある岩屋堂は春の桜、秋の紅葉の名所として有名です。

西暦800年ごろ名僧・行基が岩窟内で三体の仏像を彫り、時の聖武天皇の病気平癒を祈願したと、伝えられています。今でも多くの人が病気に靈験あらたかと参詣に訪れています。

自然豊かな一帯で特にバードウォッチングに最適な場所です。今回は野鳥を中心にお話します。コースとしては鳥原川の川沿いを上流に歩くのが最適です。無料駐車場から上流へ、川筋のソメイヨシノやイロハカエデ、アカメガシワなどの木々の梢、川の土手、上空などを観察しながら砂防ダムの堰堤の途中で折り返すと往復3時間ぐらいかかります。

鳥原川の目玉はカワガラスとアオシギです。カワガラスは少し上流で以前は必ず見えましたが最近は見えない日もあります。アオシギは淨源寺の横あたりの渓流で運が良ければ出会う事が出来ます。12月～2月の冬季にはカヤクグリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ミソサザイ、クロジ、イカル、マヒワ、ウソ、ヒガラなどが見られます。ウソは川沿いのサクラの芽をついぱんでいるのを、イカルはプールや岩屋堂付近のモミジの新芽を食べている姿を、ミソサザイは上流の滝の付近で、カヤクグリはダムの堰堤付近で良く見かけます。

春より夏にかけてはオオルリ、サンコウチョウ、キビタキ、ヤブサメ、ウグイスの姿やさえずりが聞こえます。オオルリは川沿いの木のてっぺんに止ってさえずるので上手く見えます。サンコウチョウは駐車場より右手の森で、キビタキ、ヤブサメは岩屋堂より奥の森で良く聞こえます。これらの夏鳥のさえずりは繁殖期の終る七月まで聞こえます。

ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、キセキレイ、セグロセキレイ、エナガ、コゲラ、ホオジロ、カワラヒワ、ヒヨドリなどは年間を通して見ることが出来ます。

最後に花の目玉を一つ。2月ごろセリバオウレンが淨源寺の境内でひっそり咲き始めます。お寺の人に許可を得て見せてもらいましょう。

健脚の方は時間があれば岩巣山へ登るのも良いでしょう。

所在地 濑戸市岩屋町

アクセス 国道248号線北上、品野本町右折 約5分

バス 中水野駅行が1日3本

自然のしくみ・その2

西三河支部

奥居達朗

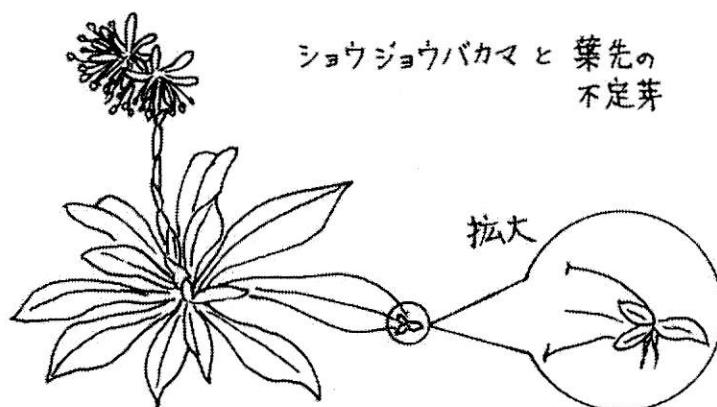
私のフィールドの一つに岡崎中央総合公園自然観察の里があります。春になると冬枯れだったコナラやアベマキの新芽が一斉に吹き出し銀緑色に山を被い、ヤマザクラが花をいっぱいに付け点々と散らばっているのが遠望できます。ヤブツバキの花の散り敷く林道を歩くと、メジロやヒヨドリが賑やかに鳴きながら、ヤブツバキの蜜を求めて花の中へ顔を突っ込んでいます。彼らは蜜をもらう換わりに、嘴や顔を花粉で黄色く染めて、知らぬ間に送受粉をさせられています。

コバノミツバツツジの花も咲き、ハナアブが忙しく蜜を求めて飛び回っています。こんな場合には蜜標の解説をすることにしています。コバノミツバツツジの花の奥、上部に色の濃い目立つ部分があり、虫たちに「ここへいらっしゃい！蜜がありますよ」と教えてています。そして昆虫がそこへやって来るとそれを待ち構えるように、昆虫の体に触れる位置に雄しべ、雌しべが配置されているので、昆虫は知らぬ間に送受粉をさせられる仕組みです。植物と昆虫との共生関係です。このとき「他の花でも蜜標を持っているものは沢山あります、見つけたら教えてくださいね」と言っておきます。ニオイタチツボスミレも多く見られます。この花はとてもよい香りがします。参加者に匂いをかいでみてもらいます。「わあ、ほんとだ、いい香り」とか「ぼく、匂わん」となどと反応があり、そのうち「あれー、これさっき聞いた蜜標じゃない？」「どれどれ、そう、そう、よく見つけましたね、スミレにも蜜標があります」。私も内心「ヤッター」と思う瞬間です。

ショウジョウバカマが花を咲かせています。山地や林野の湿ったところによく見られる多年草です。ここでも子孫をしっかりと残していくこうとする、生き残りの仕組みがいくつか観察できます。まず、花の咲き始めのものですが、花被片が少し開いた状態のとき、雌しべが突き出していて雌性期です。それが花茎を徐々に伸ばしながら花被片を開き、雄しべが伸び出し雄性期となります。これは自家受粉を避け、多様な遺伝子を持つ子孫を残すための仕組みです。

花の時期の花の地上高は 15~20cm 程度ですが、果実が熟れ種子を散布するころには花茎は、50cm 程度にまでぐんと伸び上がります。果皮が裂けると中の線形の種子は、糸くずのような付属体を付けていて風に乗り散布されます。実に 3 倍ほどにも背伸びをし、親からできるだけ離れたところへ子供を移動させようという作戦なのです。

また、葉の先端に芽を付けた株をよく見ます。葉先が地面に着くとこの芽から根を出し新しい株になります。親と子の株が 15cm ほど離れて並ぶことになります。これは無性生殖の芽で、遺伝子的に親と全く同じクローンの株になります。さらに、花の時期に根元をよく観ると、花茎のすぐ脇に新しいロゼットができています。越冬用の、翌年に花をつける株なのです。このようにショウジョウバカマでは、二刀流、三刀流の子孫繁栄戦略を持っているのが観察できます。



平成 18 年度 第 4 回理事会記録

日時：07/1/20 13:30~17:00

場所：名古屋市公会堂 第 5 研修室

参加者：松尾、降幡、岩崎、石田、大谷、梶野、近藤、齋竹、佐藤、滝田、永田、堀田、三田、村上、吉田、山下、山田、吉川

欠席者：1名 傍聴：1名（尾張支部会員）

進行：松尾 記録：近藤

議事

1. 次年度事業計画決定（含・総会講演講師）：前回未決定事項

◆保全担当（吉川）→ 未定：次回理事会に提案

◆観察会担当（山田）

①ふるさと親子自然観察会についての趣旨・意義・1支部の回数などが議論された。上記についてさまざまな議論が交わされたが、担当者が 1/26 までにメール配信にてふるさと親子自然観察会についてのまとめを提示し、各理事からの意見を盛り込み 1/31 に最終決定を提案

③チラシ作成

◆研修及び受託担当（大谷）

①研修

A.6/30（土）9:30 サンコウチョウ（会員講師：佐々木和治）海上の森の P 集合

B.8/ 昆虫の観察（講師・場所未定）

C.9/ ~10/ 鳴く虫（会員講師：水野利彦）

D.1/ 保全担当と共同にて開催予定

◆調査担当（吉田）

①オオキンケイギク調査（5~6 月）についてチラシ作成費の見積もりを取り寄せたが、模索中。

結果は、HP にて公表予定

オオキンケイギクの写真提供希望

②カシノナガキクイムシについては次回理事会にて企画担当（堀田）から提案

◆企画担当（堀田）→ 次回理事会に最終案提示予定

3/21（春分の日・水）の総会プログラム

①午前：交流会のテーマ「観察会を楽しく行う工夫」を承認

②午後：講演会「ナラ枯れの実態とカシノナガキクイムシ」

講師：（予）独立行政法人森林総合研究所関西支所 高畠義啓氏

◆会計担当（石田）

仮決算提示→若干繰り越しの見込み。立替のある担当者は早急に申し出ること。

仮予算書は次回提示予定：各担当者は事業予定費を早急に会計に連絡すること

2. 総会次第決定・会場について

◆企画担当からの提示：タイム・スケジュール、当日の担当者名などの確認

総会出欠のはがきについて：投函しても毎回 100 通に満たない返信のため理事の賛否を諮り今回は廃止とすることが承認された。

参加者数増加が見込める会場確保のための費用に充当する。

代案として、メールにて出欠席伺いを行う。

◆事務局（近藤）：会場は愛知県勤労会館（鶴舞）第 2 視聴覚室を午前・午後共に確保マイク確保。プロジェクターは不明のため、企画担当者は早急に講師に確認を要す

無料駐車券が 2 枚発行されているので、搬入などで車を利用者に事前に手渡し可能

3. 編集担当者決定

次年度 4 月に改めて各担当を決定することを承認

4. 旗について

◆見積もり：縦型・横型共に 20 枚作成で@2,000（消費税別）。協議会として 40 枚作成で 80,000（消費税別）の予算で作成することを承認。各支部への配布枚数は、観察会場所などを加味して調整予定。それ以上の枚数が必要な支部は、支部経費にて調達してもらうことを承認

5. その他：新指導員歓迎会について：12~翌 1 月に予定することを承認

■平成 18 年度 第 5 回理事会記録

日時：07/2/10 13:30~17:00

場所：名古屋教育館 第 8 研修室

参加者：松尾、鬼頭、降幡、石田、大谷、
小山、近藤、齋竹、佐藤、滝田、
永田、樋口、堀田、三田、山下

欠席者：6 名 傍聴：1 名（名古屋支部会員）

進行：鬼頭 記録：近藤

議事

1. 次年度事業計画決定

（含・総会講演講師）：前回未決定事項

■企画担当）：3/21（春分の日・水）の講演会について、講師：高畠義啓氏（PC持参）から承諾の連絡を受けた旨の報告及び諸経費 35,000 円を承認

■保全担当：12 月～2 月は OK

12/24(月・休)に室内研修開催を承認

（19 年度理事会で内容決定）

■新指導員歓迎会日時について

12/24(月・休)の室内研修開催日に歓迎会を行うことを承認

■観察会担当

ふるさと親子自然観察会のチラシの内容検討及び配布可能枚数について
観察会の呼びかけ文・趣旨・意義・主催者名などの記載をしてチラシ作成か？
作成枚数：名古屋 200、尾張 500、知多 200、西三河 500、東三河 200、奥三河 100

■調査担当

①オオキンケイギク調査のチラシ案を 2/17 までに作成（吉田）
②カシノナガキクイムシについて
(名古屋支部提案)
フィールド研修 1 回（5 月）、5 月から

調査開始、12 月末までに調査報告書作成し「協議会ニュース」・HP にて発表。
諸経費 33,000 円を承認。

2. 総会次第決定（理事集合時間・記録その他当日の役割分担決定）

◆企画担当からの提示

タイム・スケジュール、当日の担当者名などの確認。当日、理事は 10:00 集合、会場設定を行い、10:30 から交流会開催、役割分担を決定。

別紙スケジュール表の確認及び訂正

◆事務局（近藤）から：プロジェクト、確保（借り上げ料支払い済み）

無料駐車券（2 枚）：吉川理事が冊子「海上の森の自然・・」他搬入用

→ 降幡副会長に依頼

3. 総会配布資料について

①第 1・第 3 議案：事業報告・事業予定
→ 配布資料の訂正

②第 2・第 4 議案：決算報告・事業予算
→ 決算書の監査予定

仮予算書は各担当者からの事業予定費を盛り込んで作成。

2/20 までに事務局へ資料送付。

4. 旗について（各支部の希望数）

◆協議会として 40 枚作成で 80,000
(消費税別) の予算。

各支部への配布枚数は、会員数を加味して調整。それ以上の枚数が必要場合、

支部経費にて調達

下記、別表参照

5. 理事の推薦及び承認

理事として推薦・承認され、布目均理事（名古屋支部）が運営に加わることとなった。

	名古屋	尾張	知多	西三河	東三河	奥三河
縦型（配布数）	8	0	10	9	0	0
横型（配布数）	5	9	10	1	7	2
支部負担数	3	0	13	5	0	0

▲各支部へ配布の旗の数及び支部負担数

■平成19年度総会 於/愛知県勤労会館
3月21日(春分の日・水)開催
平成19年の総会を、見出しの通り開催します。当日は午前に支部交流会「観察会を楽しくする工夫」、午後は総会及び講演会を予定しています。詳細は、裏表紙p12を参照ください。どうぞ、お楽しみに!

■カンパをいただきました。

下記3名の会員より、協議会にカンパをいただきました。

稻生和久さん 7,000円

松尾初さん 4,000円

中西正さん 3,000円(以上、50音順)

協議会運営に、有効に活用させていただきました。ありがとうございました。

■会員の情報について

●新会員紹介 ~活躍を期待します!~

名簿に、下記会員の連絡先を追加・変更を。

坪井 晋吾さん(尾張支部)

〒471-0004

愛知県豊田市双美町2-45

0565-89-8290

山口 昌宏さん(尾張支部)

〒483-8184

愛知県江南市寄木町天道76

05871-55-6231

●郵便番号・住所表示の変更

古川俊江さん(尾張支部)

〒468-0020

名古屋市天白区平針南2-2006

■会費納入について=

平成19年度の会費納入時期になりました。会費は、「協議会ニュース」作成・配布、各種研修、観察会など協議会の円滑な運営に使われます。各支部を通して速やかに手続き願います。

(以上、事務局:近藤)

■協議会ニュース送付用封筒について

協議会ニュースを送付している封筒にお気づきでしょうか。現在、使用済み封筒を再利用したものと、透明なOPPのものが併用されています。

このOPP封筒について、会員から次のようなご意見をいただきました。「送付用の封筒について自然保護、環境をテーマにして活動している我々の団体が環境汚染の元凶の一つに数えられているビニールを封筒に使っているのは如何なものでしょうか? ニュースの編集から会員への送付まで大変なご尽力を頂いていらっしゃることとお察ししますが上記ご配慮頂きたくよろしくお願い致します。」

環境への負荷の低減に配慮することは重要であり、編集担当や自然観察メーリングリストで意見交換をしましたので、その内容を紹介します。

採用にいたった理由は、まずテープ付きで、発送作業の負担軽減になることです。次に透明で協議会ニュースに印刷された差出人の表示が見えるので、差出人の印刷が不要のうえ、封筒自体の価格も紙製に比べ約1/3で、経費節減になります。

OPPの素材はポリプロピレンで、石油を原料とするプラスチックですが、塩ビなどと違い、構成元素は炭素と水素だけで、燃やしてもダイオキシンの発生などの問題はありません。適切な廃棄物処理がなされるように分別すれば、環境負荷はそれ程問題にならないのではないかということで、紙製が望ましいにしても、価格面をはじめ他にメリットがあるならば使用してやむをえないというご意見をいただきました。

また、資料入れなどとして個人で再利用すればより環境に配慮したものといえるとのご意見もありました。

ただ、紙製封筒にしてもOPP封筒にしても、生産・流通・使用・廃棄の全過程を通じたライフサイクルアセスメントの視点からの環境負荷が明確でなく、今後こうした点にも注意する必要があるとのご指摘もいただきました。

こうした議論を踏まえ、当分の間は使用済み封筒の再利用とOPP封筒の併用をしていきますので、ご理解をお願いします。 (編集部:齊竹)

平成 19 年度通常総会のおしらせ

3月 21 日 (春分の日・水) 於・愛知県勤労会館つるまいプラザ (JR・地下鉄鶴舞下車)

平成 19 年度通常総会を見出しの通り開催します。午前は観察会についての交流会を、午後は通常総会及び講演会を企画しました。愛知県自然観察指導員連絡協議会会員が一同に集う数少ない機会です。是非、出席ください。

尚、当日は、「協議会ニュース」同封の総会資料を必ず持参ください。

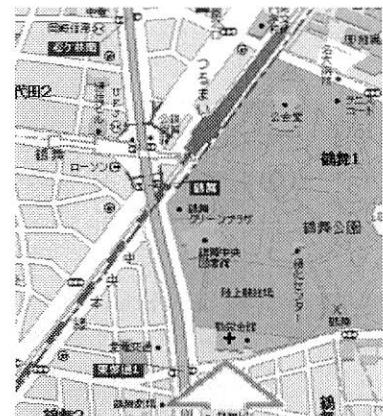
10:00 幹事・役員集合 → 全員で会場設定
10:30 支部交流会 テーマ「観察会を楽しくする工夫！」
11:45 終了

12:00 各役員集合 → 会場準備
12:30 受付開始
13:00 総会開会宣言
・総会参加者数報告
・平成 18 年度各理事紹介
・松尾会長挨拶
・議長・書記係の選出
13:20 平成 19 年度通常総会議事
① 1 号議案 平成 18 年度事業報告
② 2 号議案 平成 18 年度決算報告・監査報告
③ 3 号議案 支部長交代の報告・新理事の承認
④ 4 号議案 平成 19 年度事業 (案)
⑤ 5 号議案 平成 19 年度予算 (案)
⑥ その他 (旗の配布について・質疑応答)

14:45 総会終了宣言
<休憩>
講演会準備 (懇親会参加希望の確認と人数把握)

15:00 講演会
「ナラ枯れの実態とカシノナガキクイムシ」について
高畑 義啓 氏 (独立行政法人 森林総合研究所 関西支所)
16:20 質疑応答 質問タイム
16:45 閉会・後片付け
17:00 会場退室
17:10 希望者懇親会会場へ移動 (会費:男性 4,000 円/女性 3,000 円)

◎編集スタッフ◎
岩沙 雅代、岡田 保、近藤 記巳子、
齋竹 善行、永田 孝、牧野 靖子、
横井 邦子、吉田 孝三



愛知県勤労会館
つるまいプラザ
(JR・地下鉄鶴舞下車)

協議会ニュース編集部
〒482-0007
岩倉市大山寺元町 12-3
齋竹善行

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101
近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460

◆◇◆ 郵便振替口座 ◆◇◆

口座番号: 00820-9-6546 口座名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会